

# はじめに

子どもといっしょに物語を楽しみませんか

## 子どもにとっての物語

子どもたちは、おはなしを聞くことが好きで、本能的に物語を求めているようにみえます。それは、物語にはまだ見ぬ世界へのあこがれがあり、子どもたちがこれから歩まなければならない人生の道しるべがあるからです。

子どもたちは、物語の中の冒険に胸躍らせ、ものごとの不思議さに目をみはります。時には、恐ろしさに肝を縮ませ、悲しみに胸をつまらせたりしながら、主人公と共にさまざまな経験をし、さまざまな人と出会います。こうして心を広げたり縮ませたりしながら、無意識のうちに柔軟な強い心を育てています。まさに物語を楽しみながら、現実の困難に立ち向かっていくための心の準備をしているのでしょう。

## 大人にとっての子どもの本

子どもといっしょに物語を楽しんでいる大人は一樣に、子どものまっすぐなまなざしに感動し、子どもを愛おしく思うようになったと言います。幼い子どもは、切ないほどに正義を愛し、悪を憎み、未熟で弱い主人公が最後には幸せになることに拍手喝采を送ります。こんな子どもの姿は大人に、人間の明るい未来を信じさせてくれます。また、物語を通して自分自身の子どもの時代を思い出し、時間を越えて現代の子どもたちと共感し合えるために、子育てが楽しくなります。

## 耳からの読書をおすすめします

子どもは読み聞かせてもらえば、かなりのことを理解できます。しかし、長い文章を読み通す読解力や根気が身につくには、時間がかかります。ですから、すぐれた長い物語に主人公と年ごろに出会うためには、大人に読み聞かせてもらうことが必要です。物語を読んでもらい、それを聞いてイメージを描くことも読書です。

## リストの性格

① ストーリーテリング(覚えて語るおはなし)のテキストとしてふさわしい、耳から聞いてイメージを作りやすい文体の物語を選びました。

ストーリーテリングでは聞き手の目を見ながら語るのもので、子どもたちはより集中して聴くことができます。また、語り手は子どもの反応がつぶさに分かるので細やかに対応して語るすることができます。しかし、読み手と聞き手が親しい関係ならば、読み聞かせても伝わります。その際は、文字を指でなぞりながらゆっくと読み、句点(。)の箇所では、ちょっと目を上げて聞き手の様子を見てください。それが「間」となって、聞き手は言葉を腑に落すことができ、読み手は息を整えることができます。

② おはなし会で5歳以上の不特定多数の子どもたちへ読み聞かせたり、家庭などで3歳以上のお子さんに個人的に読み聞かせることを想定しています。

③ 時間はあくまで目安です。読み手の個性によって多少変わるものですし、聞き手の年齢や人数によっても変わってきます。

④ おすすめ度は、長い年月、様々な子どもに語ってきた経験から入れました。リストに挙げた本は、どれも聞いてイメージしやすい文体のもので、しかし語り手の個性によっては、リストにない他のおはなしも楽しく語ることができるでしょう。書名を参考に、おはなしの幅を広げてください。

⑤ 対象年齢はあくまで目安です。おはなしを聞く力は積み上がります。聞きなれると少々長くて難しそうに見えるおはなしも楽しめるようになります。また大好きな人に語ってもらえば、どんなおはなしも楽しめるというものです。



(平成 23 年 4 月 1 日)

NO	書名	おはなしのタイトル	時間 短:5分前後 中:10分前後 長:15分以上	おすすめ度	対象 幼:幼児～ 低:低学年～ 高:高学年～ 上:中学生～
1	『おはなしのろうそく1』  (東京子ども図書館／文・編 刊)  *ストーリーテリングのテキストとして編集したおはなし集で、世界の昔話、短い創作物語、手遊び、わらべ歌を収録。	エパミナンダス	短	◎	低
		かしこいモリー	中	◎	低
		おいしいおかゆ	短	○	低
		ブドーリネク	長	◎	幼
2	『おはなしのろうそく2』	スヌークスさん一家	短	○	低
		十二のつきのおくりもの	中	◎	低
		森の花嫁	長	○	低
3	『おはなしのろうそく3』	ねずみじょうど	中	◎	中
		金いろとさかのおんどり	短	◎	幼
		ガチョウ番の娘	長	◎	幼
4	『おはなしのろうそく4』	三人ばか	中	○	中
		あなのはなし	短	◎	幼
		美しいワシリーサとババ・ヤガー	長	◎	高
5	『おはなしのろうそく5』	うちの中のウシ	中	○	中
		長ぐつをはいたねこ	長	○	中

		三枚のお札	中	◎	幼
6	『おはなしのろうそく6』	歌うふくろ	中	◎	幼
		なら梨とり	短	◎	幼
		ついでにペロリ	短	◎	幼
		仕立てやのイトチカさんが王さまになったはなし	長	○	高
7	『おはなしのろうそく7』	小鳥になった美しい妹	長	○	中
		おばあさんとブタ	短	◎	幼
		いうことをきかないうなぎ	短	◎	中
		たにし長者	中	◎	低
		熊の皮を着た男	長	◎	高
8	『おはなしのろうそく8』	まめじかカンチルが穴に落ちる話	短	○	低
		牛方とやまんば	中	◎	幼
		ながすね ふとはら がんりき	長	○	中
9	『おはなしのろうそく9』	だめといわれてひっこむな	短	◎	幼
		風の神と子ども	短	◎	低
		ツグミひげの王さま	長	◎	中
		ジーニと魔法使い	長	○	中
10	『おはなしのろうそく10』	クルミわりのケイト	中	◎	中
		7羽のからす	中	◎	幼

		たいへん たいへん (人形劇)	短	◎	幼
		かちかち山	中	◎	低
		世界でいちばんやかましい音	長	○	低
11	『おはなしのろうそく11』	世界でいちばんきれいな声	短	◎	幼
		三枚の鳥の羽	中	◎	中
		ヴァイノと白鳥ひめ	長	○	中
12	『おはなしのろうそく12』	オンドリとネズミと小さい赤いメンドリ	中	○	幼
		瓜こひめこ	中	◎	幼
		ルンペルシュティルツヘン	中	◎	低
		やもめとガブス	長	○	中
13	『おはなしのろうそく13』	こすずめのぼうけん	中	◎	幼
		ぬか福と米福	中	○	中
		北風に会いにいった少年	中	◎	幼
		雨のち晴	長	○	高
		おどっておどってぼろぼろになったくつ	短	◎	低
14	『おはなしのろうそく14』	天福 地福	短	○	低
		チモとかしこいおひめさま	中	○	低
		森のなかの3人のこびと	長	◎	低
		ブタ飼い	長	○	高

15	『おはなしのろうそく15』	ホレお婆さん	中	◎	低
		犬と猫とろうこ玉	中	◎	幼
		ガチョウおくさんのおふろ	短	○	中
		赤鬼エティン	長	◎	中
16	『おはなしのろうそく16』	腰折れすずめ	短	◎	低
		ふたりのあさごはん (詩)	短	◎	低
		鳴いてはねるヒバリ	長	○	中
17	『おはなしのろうそく17』	かにかにこそこそ	中	◎	幼
		ねこっ皮	長	○	中
18	『おはなしのろうそく18』	ねずみのすもう	短	◎	幼
		おおかみと七ひきの子やぎ	中	◎	幼
		ホットケーキ	中	○	幼
		番ねずみのヤカちゃん	長	◎	幼
19	『おはなしのろうそく19』	小犬を拾って仕合せになった爺さんの話	長	○	低
		まめたろう	中	◎	低
		森の家	長	◎	中
		金の髪	中	◎	中
20	『おはなしのろうそく20』	クナウとひばり	短	○	中
		すずめとからす	短	◎	幼

21	『おはなしのろうそく21』	ねことねずみ	短	◎	幼
		まのいいりょうし	短	○	中
22	『おはなしのろうそく22』	金の腕	短	○	低
23	『おはなしのろうそく23』	絵姿女房	中	○	中
24	『おはなしのろうそく24』	雌牛のブーコラ	短	◎	幼
		おやふこうなあおがえる	短	○	低
25	『おはなしのろうそく25』	お月さまの話	短	○	低
		ブラックさんとブラウンさん	短	○	幼
		北斗七星	短	◎	幼
26	『おはなしのろうそく26』	ねずみの小判干し	中	○	幼
		びんぼうこびと	短	◎	低
27	『おはなしのろうそく27』	がちょうはくちょう	中	◎	幼
		しおちゃんとこしょうちゃん	短	○	幼
		指輪	短	◎	中
		月を射る	中	○	中
28	『こども世界の民話 上』 (内田 莉莎子／他著 実業之日本社)  *『子どもに聞かせる世界の民話』(実業之日本社)の78話から 子ども向けの話を選んで収録。	ヤギとライオン	短	◎	低
		さるのきも	短	○	低
		とまらないくしゃみ	短	◎	低
		ねこが、ごはんのあとで顔をあらうわけ	短	○	幼

		かしこいおもしろいやせぐすり	短	◎	高
		宝さがし	中	○	中
		かめのこうらは、ひびだらけ	短	◎	低
		とらたいじ	中	○	低
		マメ子と魔もの	中	◎	幼
		たにし王子	長	○	高
29	『こども世界の民話 下』	アナンシと五	短	◎	幼
		王子さまの耳はろばの耳	短	◎	幼
		ひな鳥とねこ	短	◎	幼
		チワンの錦	長	◎	高
		お百姓とえんまさま	中	◎	中
		二ひきのよくばりな子ぐま	短	○	幼
30	『子どもに語る日本の昔話 1』 (稲田 和子／著 こぐま社) * 地の文はほぼ共通語でせりふの部分に方言を残した再話。 お国柄が伝わり味わいがある。 * 『昔話百選』(三省堂)は同じ再話者の本。より簡潔に整えられているが、方言を多く残した言い回しは幼い子には難しい。	古屋のもる	中	○	中
		犬とねことうろこ玉	中	◎	幼
		みそ買い橋	短	○	中
		うりひめ	中	◎	幼
		さる地蔵	中	○	幼
		舌切りすずめ	中	○	低
		田の久	中	○	幼

		地獄からもどった男	中	○	低
		じいさとかに	短	◎	低
		風の神と子ども	中	○	中
		大工と鬼六	短	○	幼
		馬子と山んばばあ	中	○	低
		つる女房	中	○	中
		笠地藏	短	◎	幼
31	『子どもに語る日本の昔話 2』	花咲かじい	長	◎	中
		三枚のお札	中	◎	幼
		天とうさん金のくさり	中	○	低
		文福茶釜	短	◎	低
		栗福米福	中	○	中
		聞き耳ずきん	中	○	幼
		さるとかに	中	○	幼
		鳥のみじい	短	◎	幼
		おんば皮	長	○	高
		鼻高たいこ	中	◎	幼
		地藏浄土	中	○	低
		うば捨て山	中	○	中

		たにし長者	中	◎	低
		旅人馬	中	○	低
		雪女	中	◎	中
		貧乏神	短	○	中
		ねずみ経	中	◎	幼
32	『子どもに語る日本の昔話 3』	うさぎとひきのもち争い	短	◎	幼
		はなたれ小僧さま	短	○	低
		ねずみ浄土	中	◎	幼
		なら梨とり	中	◎	幼
		三つのねがい	中	○	低
		天福地福	短	○	低
		かちかち山	長	◎	幼
		足折れつばめ	短	○	幼
		食わず女房	中	◎	幼
		とりっこうか ひっっこうか	短	◎	幼
		五分次郎	中	○	低
		おっぼの釣り	短	○	低
		桃太郎	長	○	低
		まのいいりょうし	短	○	中

		天人女房	中	○	中
		手なし娘	中	◎	中
		千支のはじまり	短	◎	幼
		若返りの水	中	◎	幼
		絵姿女房	中	○	中
33	『かもとりごんべえ—ゆかいな昔話50選』 (稲田 和子／編 岩波書店)  *ほら話、失敗談 おろか者の話、知恵を使って強いものをこらしめる話など。	うそ話千両 首のすげかえ	短	○	中
		かもとりごんべい	短	○	高
		頭にはえた木の話	短	◎	中
		さきざきさん	長	○	高
		ねずみ経	中	◎	幼
		鳥呑みじさ	短	◎	幼
		きつねが化けた話 かみそりぎつね	中	○	中
		たのきゅう	中	○	中
		長い名の子	短	○	中
		赤んぼうになったおばあさん	短	○	低
34	『わらしべ長者 日本の民話 22篇』 (岩波の愛蔵版 3 木下 順二／著 岩波書店)  *劇作家による独特な口調、言い回しの再話。語り手を選ぶが、味わい深い。*岩波少年文庫でも出版されている。	かにむかし—さるかに—	長	◎	中
		豆コ 話	中	◎	低
		みそ買い橋	短	◎	中
		たぬきと山伏	中	◎	中

		びんぼうがみ	中	○	高
35	『日本のむかしばなし』 (瀬田 貞二／文 のら書店)  *擬音が効果的な再話。方言を少々残しているが、ほぼ共通語による再話。	花さかじい	長	◎	低
		えすがたあねさん	中	◎	低
		ねずみのすもう	短	◎	幼
		まのいいりょうし	短	○	中
		まめこじぞう	中	○	中
		さるとひきのもちとり	中	○	低
36	『子どもに語るアジアの昔話 1』 (松岡 享子／訳 こぐま社)  *とんち話やとぼけた味わいのある話が多い。	スズメとカラス	中	◎	幼
		かしこすぎた大臣	中	○	上
		カオ兄弟の物語	中	○	上
		マハデナ・ムッタ	中	○	中
37	『子どもに語るアジアの昔話 2』	王さまとオンドリ	中	◎	低
		小石投げの名人タオ・カム	中	◎	中
		ジャッカルとワニ	中	○	中
		マカトのたから貝	長	○	高
		百姓のおかみさんとトラ	中	◎	中
		ドシュマンとドウースト	長	○	高
38	『子どもに語るトルコの昔話』 (児島 満子／編・訳 こぐま社)	がまんの石と刀	長	○	高
		ケローランと鬼の大女	長	◎	中

	*とんち話やとぼけた味わいのある話、トルコの伝説の偉人ホジャの話が多い。	ナスレディン・ホジャのわらい話 わかっている人はわからない人に	短	○	高
		ナスレディン・ホジャのわらい話 まねかれたんは上着	短	○	高
		ナスレディン・ホジャのわらい話 だんまりくらべ	中	◎	中
		ナスレディン・ホジャのわらい話 わしは死んじまった	短	◎	高
39	『中国の昔話』 (松瀬 七緒／訳 湯沢 朱実／再話 こぐま社)	お年玉のはじまり	短	○	幼
		なべの中のトラ	中	○	低
		二郎が山をかついで太陽を追う	短	○	中
		鼻が長くなった兄さん	短	○	幼
		トラはなぜ木に登れないのか	短	○	幼
		尾なし鳥	中	○	中
		牛飼いと織姫	中	○	中
		稲と麦のけんか	短	○	高
		かしこい嫁チアオクー	長	○	高
		牛のシラミいっぴき	中	○	高
		チャン・サンと閻魔さま	中	○	高
		地主の頭は何斤か？	中	○	高
40	『子どもに語るモンゴルの昔話』 (蓮見 治雄／訳・再話 平田 美恵子／再話こぐま社)	石になった狩人	長	◎	高
		ネズミのむこさがし	短	◎	幼
41	『白いりゅう黒いりゅう 中国のたのしいお話』	九人のきょうだい	長	◎	中

	(岩波おはなしの本 賈芝／編 岩波書店)	ねこ先生と、とらのおでし	中	◎	低
42	『ネギをうえた人 朝鮮民話選』 (金 素雲／編 岩波少年文庫)	シカとウサギとヒキガエル	短	○	中
		ナンキンムシのさかもり	短	○	中
		おむこさんの買いもの	短	◎	高
		わるいトラ	短	○	中
		トラとウサギ	中	○	中
		ネギをうえた人	中	○	高
		ブンブン東	中	◎	高
		金のつなのつるべ	中	◎	低
		竜宮の青い玉	長	○	中
		大蛇とヒキガエル	中	○	中
		カボチャの種	中	○	高
		おとうさんのかたみ	長	○	高
		ヒキガエルのむこ	中	◎	中
		金剛山のトラ	長	◎	中
43	『イギリスとアイルランドの昔話』 (石井 桃子／編訳 福音館書店)  *『イギリスの昔話』(石井 桃子／編訳 福音館書店)は、ほぼ同じ内容。訳文に古めかしい言い回しを使っていて味わいがあるので、高学年以上を対象とする話は比べてほしい。	ちいちゃい、ちいちゃい	短	◎	幼
		3びきのクマの話	中	○	幼
		かたやきパン	中	○	幼
		三びきの子ブタ	中	◎	幼

		ミアッカどん	短	◎	幼
		だんなも、だんなも、大だんなさま	短	◎	中
		ふしぎなお客	短	○	中
		りこうなお嫁さん	中	○	中
		姉いもと	長	○	中
		スワファムの行商人	短	○	中
		ノロウェイの黒ウシ	長	◎	高
		妖精のぬりぐすり	中	○	高
		イグサのかさ	長	○	中
		元気な仕立て屋	短	○	中
		たまごのカラの酒づくり	中	◎	高
44	『りこうなおきさき ルーマニアのたのしいお話』 (岩波おはなしの本 モーゼス・ガスター／文 岩波書店)	りこうなおきさき	中	○	高
		カメのせなかにはなぜまるい	短	○	幼
		キツツキのくちばしはなぜ長い	短	○	幼
		ウグイスはなぜ声がいい	短	◎	幼
		一寸ぼうし	中	○	低
		カッコウとヤツガシラ	中	○	中
		しあわせとふしあわせ	長	○	上
		コウノリはなぜしっぽがない	中	○	高

		カズラとキツネと犬	短	○	低
45	『カラスだんなのおよめとり アラスカのエスキモーのたのしいお話』 (岩波おはなしの本 チャールズ・ギラム／文 岩波書店)	ツルさんの目はなぜ青い	中	○	中
		キツネの毛がわはなぜ赤い	長	○	中
46	『山の上の火 エチオピアのたのしいお話』 (岩波おはなしの本 クーランダー／文 岩波書店)  *とばけた笑い話や知恵を使って生き抜く話が多く、語り手の個性を選ぶ。	山の上の火	長	◎	高
		グラの木こり	中	◎	中
		アディ・ニハアスの英雄	短	○	中
		おはなしのだいすきな王さま	短	◎	中
		とんだぬけさく	中	○	高
47	『天からふってきたお金 トルコのホジャのたのしいお話』 (岩波おはなしの本 アリス・ケルジー／文 岩波書店)  *伝説の知恵者ホジャの話。おおらかでとんちの利いた話や、発想の転換で幸せになる話が多い。	四本の矢	中	○	高
		三つの金曜日	中	◎	高
		ごちそうをたべた上着	中	○	中
		ホジャ、ロバを売りにいく	中	◎	高
		三つの質問	中	◎	中
		名裁判官ホジャ	中	◎	中
		八本の足	中	◎	高
48	『子どもに語るアイルランドの昔話』 (渡辺 洋子・茨木 啓子／編訳 こぐま社)  *妖精が日常の暮らしと深く関わっている世界の不思議に満ちた話や人の運命についての話が多い。	妖精と め牛	中	○	上
		お話を知らなかった若者	中	○	上
		仕立屋ジャックと大男	長	○	低
		茶色の髪の子	長	○	高

		妖精の丘が燃えている	中	◎	中
		熊の毛皮の王子	長	◎	中
49	『イギリスの昔話』 (松岡 享子／編訳 こぐま社) * 骨太で強く聞き手を引きつける話が多い。	かしこいモリー	中	◎	幼
		おばあさんとブタ	中	◎	幼
		クルミわりのケイト	中	◎	中
		三つの願い	短	○	中
		ネコとネズミ	短	○	幼
		金の腕	短	○	中
		フォックス氏	中	◎	中
		赤鬼エティン	長	◎	高
50	『魔法のオレンジの木 ハイチの民話』 (ダイアン・ウォルクスタイン／採話 清水 真砂子 岩波書店) * 生き活きとしたリズムカルな歌や踊りと一体になった話、ふしぎな魔力に満ちた話など。	魔法のオレンジの木	中	◎	低
		悪魔のあごひげ	中	○	高
		たまご裁判	短	○	中
		テイザン	中	◎	中
		名まえ	短	○	低
		あたしがテペンギー、この子がテペンギー、あたしたちもテペンギー	短	◎	低
		バイバイ	短	○	中
51	『かぎのない箱 フィンランドのたのしいお話』 (岩波おはなしの本 ボウマン／文 岩波書店)	ユルマと海の神	長	◎	上
		どこでもないなんでもない	長	◎	上

52	『子どもに語るグリムの昔話 1』 (ヤーコプ・グリム／著 野村 滋・佐々 梨代子／訳 こぐま社)  * 数あるグリム昔話集の中で、語るために吟味した訳文で幼い子どもにも分かりやすい	おおかみと7ひきの子やぎ	中	◎	幼
		おいしいおかゆ	短	◎	幼
		ホレおばさん	中	◎	幼
		おどっておどってぼろぼろになったくつ	中	◎	低
		ルンペルシュティルツヘン	中	◎	低
		金の鳥	長	◎	中
		つぐみひげの王さま	長	◎	高
		熊の皮を着た男	長	◎	高
		鳴いてはねるひばり	長	◎	中
		ならずもの	中	○	中
		マリアの子	長	◎	低
		がちょう番の娘	長	◎	高
53	『子どもに語るグリムの昔話 2』	みつけどり	中	◎	幼
		ねことねずみのともぐらし	中	○	上
		かえるの王さま	中	◎	中
		白雪ひめ	長	○	低
		六人男、世界をのし歩く	長	○	高
		十二人兄弟	長	◎	低
		白雪とばら紅	長	○	低

54	『子どもに語るグリムの昔話 3』	七わのからす	中	◎	幼
		星の銀貨	短	◎	幼
		手なし娘	長	○	中
		ラプンツェル	中	◎	上
		忠臣ヨハネス	長	◎	上
55	『子どもに語るグリムの昔話 4』	ブレーメンの音楽隊	中	○	幼
		森の家	長	◎	低
		わらとすみとそら豆	短	◎	幼
		灰かぶり	長	○	低
		死神の名付け親	中	○	高
		金の毛が三本ある悪魔	長	○	高
		マレーンひめ	長	◎	上
56	『子どもに語るグリムの昔話 5』	赤ずきん	長	◎	幼
		一つ目、二つ目、三つ目	長	◎	低
		三まいの鳥の羽	中	○	幼
		森のなかの三人のこびと	長	◎	中
57	『子どもに語るグリムの昔話 6』	こびととくつや	短	◎	幼
		金のがちょう	長	○	中
		いばらひめ	長	◎	高

		ヨリンデとヨリンゲル	中	◎	中
		漁師とおかみさんの話	長	○	高
58	『おいしいおかゆ グリムのほん 1』 (石井 桃子、佐々 梨代子、荒井 督子／再話 子ども文庫の会)  *訳文は古めかしいが、味わいがある。	おいしいおかゆ	幼	◎	幼
		おおかみと七ひきのこやぎ	中	◎	幼
		わらとせきたんとそらまめ	短	◎	幼
		赤ずきん	中	◎	幼
		こびととくつや	短	◎	幼
		三まいのとりのはね	中	◎	低
		七わのからす	中	◎	低
59	『ホレおばさん グリムのほん 2』	三人の糸つむぎ女	中	○	中
		ホレおばさん	中	◎	低
		すて子鳥	中	◎	幼
		ヘンゼルとグレーテル	長	◎	低
		金のガチョウ	中	○	低
		森の中の家	長	◎	低
		名人四人きょうだい	長	○	中
		ネコとネズミのともぐらし	中	○	中
		怪鳥グライフ	長	○	高
		おどっておどってぼろぼろになったくつ	中	◎	低

		白雪と紅バラ	長	○	中
60	『一つ目二つ目三つ目 グリムのほん 3』	カエルの王さま	中	◎	中
		一つ目二つ目三つ目	長	◎	低
		ルンペルシュティルツヘン	中	◎	低
		六人の男のし歩く	中	◎	中
61	『子どもに語る北欧の昔話』 (福井 信子・湯沢 朱実／編訳 こぐま社)  *トロルの登場する話、素朴で骨太でどこかユーモラスな話が多い。	りすとてぶくろと針	短	○	幼
		北風をたずねていった男の子	短	◎	幼
		銅のなべ	中	◎	中
		屋根がチーズでできた家	中	◎	幼
		トロルとうでくらべをした少年	長	○	中
		おんどりときつね	短	○	中
62	『ものいうなべ デンマークのたのしいお話』 (岩波おはなしの本 メリー・C・ハッチ／文 渡辺 茂男／訳 岩波書店)	かあさん子のたからさがし	長	○	中
		ものいうなべ	中	◎	低
		ふしぎなはいのう	中	○	中
63	『トンボソのおひめさま フランス系カナダ人のたのしいお話』 (岩波のおはなしの本 マリュース・バーボー／文 岩波書店)	金の不死鳥	長	◎	高
		トンボソのおひめさま	長	○	高
		いじわる妖精	長	○	高
64	『黒いお姫さま ドイツの昔話』 (ヴィルヘルム・ブッシュ／採話 福音館書店)	黒いお姫さま	中	◎	低
		スリクシェばあさん	中	○	高

		寒い冬	短	○	中
		魔法にかけられたお城	中	○	中
65	『みどりの小鳥 イタリア民話選』 (岩波のおはなしの本 イタロ・カルヴィーノ／作 岩波書店) * 数々の類話の中から民話の原型に近いものを収集している。 そのままでは語りにくい話もあるので少々手を入れる必要がある。	水晶のおんどり	短	○	幼
		袋のなかの男の子	中	◎	幼
		梨といっしょに売られた女の子	中	○	低
		ジーリコッコラ	中	○	低
		狼おじさん	短	◎	低
		こわいものなしのジョヴァンニン	中	○	中
		死人の腕	中	○	中
		ジュファーと石膏の彫像	短	○	高
		ジュファーと月の泥棒と警官	短	○	高
		ジュファーと真赤な帽子	短	○	高
		ジュファーと皮袋	短	◎	高
66	『子どもに語るイタリアの昔話』 (剣持 弘子／訳・再話 平田 美恵子／再話協力 こぐま社) * 幼い子にもよく分かる、語りやすい話が多い。	やせたメンドリ	短	○	中
		ブッケティーノと鬼	中	◎	幼
		ネコの家に行った女の子	中	◎	幼
		ヤキとコオロギ	中	○	幼
		ゆうかんな靴直し	中	◎	中
		はらぺこピエトリン	中	◎	幼

		リンゴ娘ニーナ	中	◎	中
67	『まほうの馬 ロシアのたのしいお話』 (岩波おはなしの本 A.トルストイ. M. ブラートフ／文 岩波書店)	めんぼうをもったキツネ	短	◎	幼
		金のとさかのおんどり	短	◎	幼
		アリョーヌシカとイワーヌシカ	中	◎	低
		カマスのめいれい	中	○	高
		まほうの馬	長	◎	高
68	『太陽の木の枝 ジプシーのむかしばなし1』 ( イェジー・フィツォフスキ／再話 福音館書店) *天体や音楽・魔法のお話を色彩豊かに描いたお話集。	太陽の木の枝	長	◎	高
		バラの花とバイオリンひき	中	◎	高
		なんでも見える鏡	中	◎	中
69	『きりの国の王女 ジプシーのむかしばなし2』 ( イェジー・フィツォフスキ／再話 福音館書店) *雨・霧・雷など気象や音楽・魔法のお話を色彩豊かに描いたお話集。	きりの国の王女	中	◎	中
		ひつじかいのバンレングロ	中	◎	中
		魔法の小鳥	中	○	高
		悪魔をだましたジプシー	中	○	中
70	『ロシアの昔話 愛蔵版』 (内田 莉沙子／編訳 福音館書店) *福音館文庫でも出版されている。  *『まほうの馬 ロシアのたのしいお話』(岩波書店)より簡潔に再話している。	魔法の馬	中	◎	中
		うさぎのなみだ	短	○	低
		ババヤガーの白い鳥	中	◎	低
		かえるの王女	中	◎	中
		マーシャとくま	短	◎	幼
		かますのいいつけ	長	○	中

		白いかも	中	◎	中
		おおきなかぶ	短	◎	幼
		雪むすめ	短	◎	低
		おんどりとまめ	短	○	幼
		金のとさかのおんどりと魔法のひきうす	中	◎	幼
		はいいろおでことやぎとひつじ	中	○	中
		おおかみと子やぎたち	中	◎	幼
71	『千びきのうさぎと牧童』 (岩波のおはなしの本 ポラジンスカ／文 岩波書店)  *ドラマチックな長い話。お話を聞きなれた年齢の大きな子に。	もつくもつく	長	○	中
		くつやのドラテフカ	長	◎	低
		千びきのうさぎと牧童	長	○	高
		おばあさんはまだらのめんどりをかっていた	中	○	低
72	『くしゃみくしゃみ天のめぐみ』 (松岡 享子／作 福音館書店)  *昔ばなし風の創作物語集。おならやしやくりなど体から出るものを題材としたおかしいお話ばかり。	くしゃみくしゃみ天のめぐみ	中	○	中
		とめ吉のとまらぬしゃっくり	中	◎	中
		かん太さまのいびき	中	◎	中
		梅の木村のおならじいさん	中	◎	中
		あくびやあめ太郎	長	○	高
73	『氷の花たば』 (アトリー／作 石井桃子・中川李枝子／訳 岩波書店)	メリー・ゴー・ラウンド	長	○	中
		木こりの娘	長	◎	上
		氷の花たば	長	◎	上

74	『チム・ラビットのぼうけん』 (アトリー／作 石井桃子／訳 童心社)	チム・ラビットとはさみ	長	◎	幼
		チム・ラビットのうん	長	◎	低
		チム・ラビットのあまがさ	長	◎	低
		なぞなぞかけた	長	○	低
75	『西風のくれた鍵』 (アトリー／作 石井桃子・中川李枝子／訳 岩波少年文庫)	妖精の花嫁ポリー	長	○	高
		西風のくれた鍵	長	○	高
76	『クリスマス物語集』 (中村妙子／編・訳)  *クリスマスの頃に聞かせたい話。神様の不思議な力や、魔法を題材とした心温まるお話集。	だれが鐘をならしたか	中	◎	中
		クリスマス・ローズの伝説	長	◎	高
		クリスマスツリーのねがい	中	○	中
		セント・ニコラスの話	中	○	中
		シュニツツル、シュノツツル、シュヌーツル	長	○	中
		サンタクロースっているんでしょうか？	短	○	高
77	『やぎと少年』 (アイザック・B・シンガー／作 工藤幸雄／訳 岩波書店)  *ユダヤ人のお話集。楽天的な愚か者の話、不思議な心にしみる話など、お話を聞きなれた子向き。	つくりものの天国	長	◎	上
		初代のシュレミール	長	◎	上
		悪魔のたくらみ	短	○	高
		やぎのズラテー	長	◎	高
78	『あたまをつかった小さなおばあさん』 (ホープ・ニューウェル／作 松岡享子／訳 福音館書店)  *一人暮らしのおばあさんのプラス思考がたのしいお話	おばあさんが、はねぶとんを手にいれた話	中	◎	中
		おばあさんが、いたずらねずみどもから、とうもろこしをまもった話	中	○	中
		おばあさんが、がちょうをあたたかくしてやった話	中	○	中

		おばあさんが、たった一本のこったマッチをだいにした話	中	◎	中
		おばあさんが、はたけになにをうえたかという話	中	○	中
		おばあさんが、エプロンをながくした話	中	○	中
		おばあさんが、どうやってあかいマフラーをあみあげたかという話	中	○	中
		おばあさんが、買いものをした話	長	○	中
79	『こんどまたものがたり』 (ドナルド・ビセット／作 木島 始／訳 岩波書店) *身近な生き物が主人公のユーモラスでしゃれた感じのお話集。	やせた王さまとふとったコックさん	中	◎	幼
		おふろのすきなトラ	中	◎	中
		バッタとカタツムリ	中	○	低
80	『ミリー・モリー・マンデーのおはなし』 (ジョイス・L・ブリスリー／作 上條由美子／訳 福音館書店)	ミリー・モリー・マンデー おつかいこいく	長	◎	低
		ミリー・モリー・マンデー おくりものをもらう	長	○	低
81	『年とったばあやのお話かご』 (ファージョン／作 石井桃子／訳 岩波書店) *靴下の穴かがりをする間にお話をひとつ語るという枠のあるお話集で、どの話も美しい。	金の足のベルタ	長	◎	上
		青いハスの花	長	◎	高
		棟の木かざり	中	◎	高
82	『ムギと王さま』 (ファージョン／作 石井桃子／訳 岩波少年文庫) *昔話風、こっけいな話、ほのぼのとした話などバラティーターに富んだ創作物語集。人生について分かりやすく感動的に語った作品が多い。	ムギと王さま	中	◎	高
		ヤング・ケート	短	○	中
		貧しい島の奇跡	長	◎	高
		モモの木をたすけた女の子	長	◎	中
		小さいお嬢さまのバラ	中	◎	中
		ティム一家	中	◎	高

		ボタンインコ	短	◎	中
		サン・フェアリー・アン	長	◎	上
		ガラスのクジャク	長	○	上
		しんせつな地主さん	長	◎	上
		「がみがみシアール」と少年	短	◎	高
83	『魔法使いのチョコレートケーキ』 (マーガレット・マーヒー／作 福音館書店)	たこあげ大会	長	○	高
		葉っぱの魔法	長	○	高
		魔法使いのチョコレートケーキ	長	○	高
		鳥の子	長	○	高
		幽霊をさがす	長	○	高
84	『しあわせのテントウムシ』 (アルフ・ピリョイセン／作 大塚勇三／訳 福音館書店)	しあわせのテントウムシ	中	◎	低
		大工のアンデルセンとクリスマス小人	長	○	中
85	『ふしぎなオルガン』 (リヒャルト・レアンダー／作 国松孝二／訳 岩波少年文庫)  * 人の運命にまつわる話、人生の機微に富んだ話など、ドラマチックでお話を聞きなれた子向き。	ふしぎなオルガン	短	◎	中
		魔法の指輪	中	◎	上
		ガラスの心臓を持った三人の姉妹	中	○	上
		ゼップのよめえらび	中	○	上
		沼おなかのハイノ	長	○	上
		カタカタコウノトリの話	中	○	上